

楽譜がつなぐ音楽と日本の未来

JAMP

Japan Association of Music Publishing

私ども日本楽譜出版協会は1986年の発足以来、日本で唯一の楽譜出版社の集まりとして、これまで『楽譜出版』というメディアを通じて音楽作家、演奏家、指導者、学習者をつないできました。

現代では急速なデジタル技術の進化により、新聞・雑誌・書籍といったこれまで印刷メディアが主体であった業界でも、多様なニーズに向けたデジタルコンテンツやサービスが提供されるようになりました。しかし、デジタル技術は便利さをもたらす反面、複製・頒布の容易なデジタル技術に特有の弊害も現れてきました。

当協会の実施した調査では、楽譜の無断コピーや違法なアップロードなどの被害は非常に甚大で、今後進展するデジタル化によりその被害は量・質とも更に膨大なものへ拡大していくと見られ、楽譜出版社の事業基盤は益々脆弱なものになるのではないかと危惧しています。

楽譜出版社は、プロの作り手である作家や演奏家の代わりはできません。しかし作り手が作品や演奏に込めた思いを、同じだけの熱意と専門知識、独創性をもって世の中の様々な演奏者、学習者のために種々工夫を凝らした楽譜を出版し続けてきました。

この多様性と蓄積こそが世界に誇るべき音楽文化の所産としての優良な社会財産といえます。

当協会は創立30周年を過ぎました。私どもは「必要な楽譜が、必要なとき、必要な人に届けられる」この当たり前のことが継続していけるよう、楽譜が適正に利用できるような、法律や教育、社会環境面の整備を各方面に呼びかけてまいります。

そのことが楽譜メディアを通じて、次世代の優秀な音楽の担い手を育て、日本にさらに豊かで幅広い音楽文化を根付かせていくものと信じています。

一般社団法人 日本楽譜出版協会

●沿革

当協会は、その前身を「日本音楽出版懇話会」として、1967年に発足しましたが、楽譜出版社の団体としてより強固な組織とするために1986年10月「日本楽譜出版協会」と改称、2011年4月「一般社団法人日本楽譜出版協会」として再出発し、現在に至っています。

会員各社は、楽譜の出版及び販売を主たる業として営み、楽譜・音楽書等の卸会社、楽器店等の流通などにも関わり、音楽文化の所産としての役割を果し、楽譜市場の安定と発展に寄与してきました。

また音楽の原点と言われる楽譜の出版を通じて、関係省庁との折衝のほか音楽の著作者、著作権関係の団体とも連携し、著作権の啓蒙活動を行っています。

●目的と委員会活動

当協会は、音楽著作物の普及に努め、楽譜出版事業の健全な発展並びに楽譜出版業界全般の融和及び協調を図り、もって音楽文化の発展に寄与することを目的としています。業界が抱える諸問題については、理事会及び理事会のもとに設置している以下の5委員会等において継続的に協議、研修、情報交換等を行いながら、関係団体とも積極的に交流しています。委員会：販売対策委員会、著作権委員会、制作委員会、ネットワーク委員会、広報委員会

●会員社(五十音順)

アルソ出版(株)、(株)エー・ティー・エヌ、(株)音楽之友社、(株)学研プラス(音楽事業チーム)、カワイ出版(株)全音楽譜出版社カワイ出版部、(株)教育芸術社、教育出版(株)、(株)共同音楽出版社、(有)ケイ・エム・ビー、(株)現代ギター社、(株)サーベル社、(株)ジャパン・ミュージックワークス、(株)自由現代社、(株)春秋社、(株)シンコーミュージック・エンタテイメント、(株)鈴木楽器製作所、(株)全音楽譜出版社、(有)中央アート出版社、(株)東音企画、東京書籍(株)、(株)ドレミ楽譜出版社、(株)日研(くおん出版)、日本キリスト教団出版局、(株)フェアリー、(一般財)ヤマハ音楽振興会、(株)ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス、(株)ライリスト社、(株)リットーミュージック

(2018.8.1現在)

